

2013年3月期
決算説明会

2013年5月10日
株式会社ユタカ技研

ご説明内容

Ⅰ．2013年3月期 決算概況

Ⅱ．2014年3月期 見通し

Ⅲ．事業状況

2013年3月期

決算概況

13年3月期連結決算概況

（単位：億円）

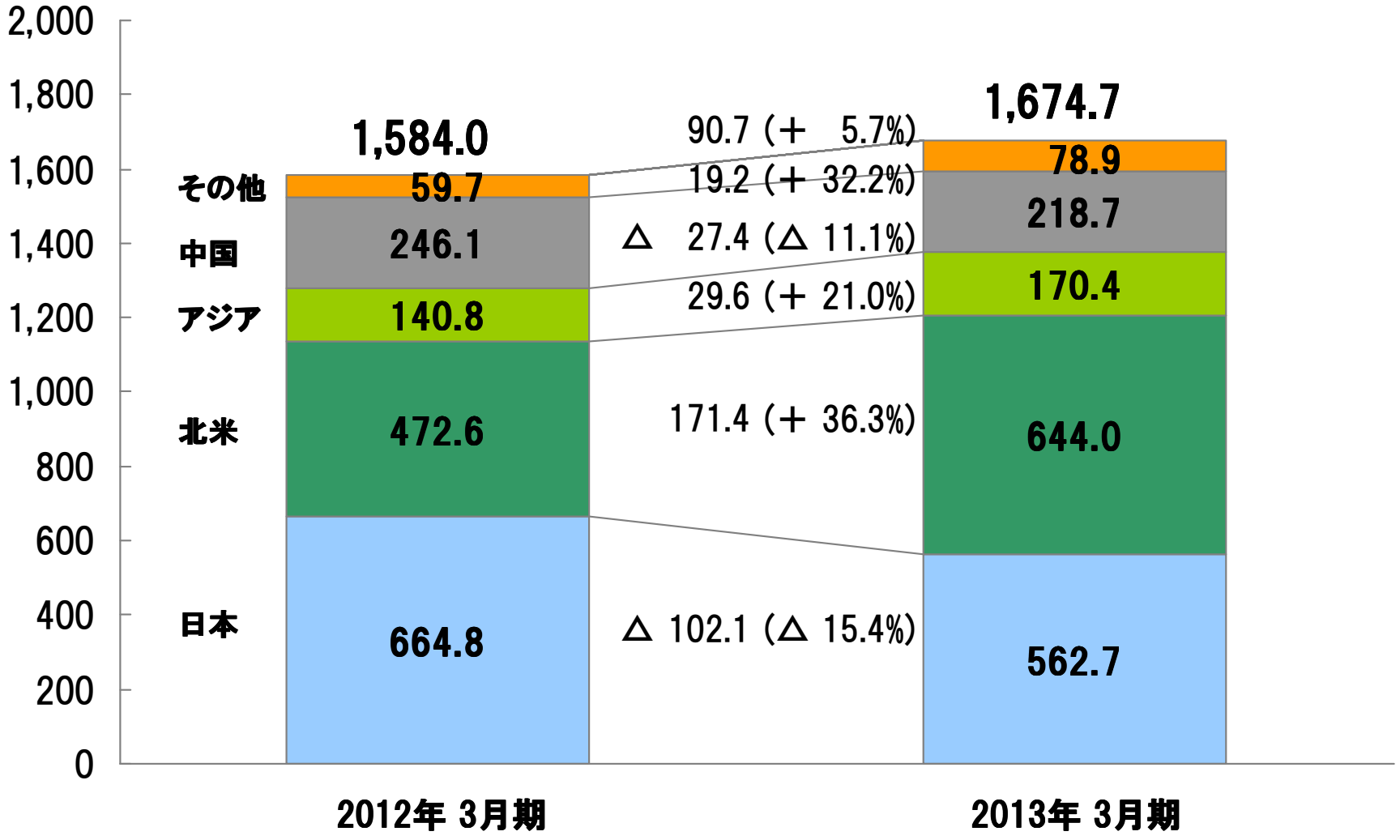
	2012年 3月期	2013年 3月期	増　減
売上高	1,584.0	1,674.7	5.7 %
営業利益	50.8	68.4	34.6 %
経常利益	51.4	75.2	46.2 %
当期純利益	24.9	38.9	56.3 %
1株当り当期純利益	168.27円	262.98円	94.71円
1株当り配当金	35.0 円 ＊中間 17円，期末 18円	36.0 円 ＊中間 18円，期末 18円	1.0 円
	($1=¥79)	($1=¥83)	

震災・タイ洪水からの受注回復により増収増益

13年3月期連結決算概況 地域別売上高

（単位：億円）

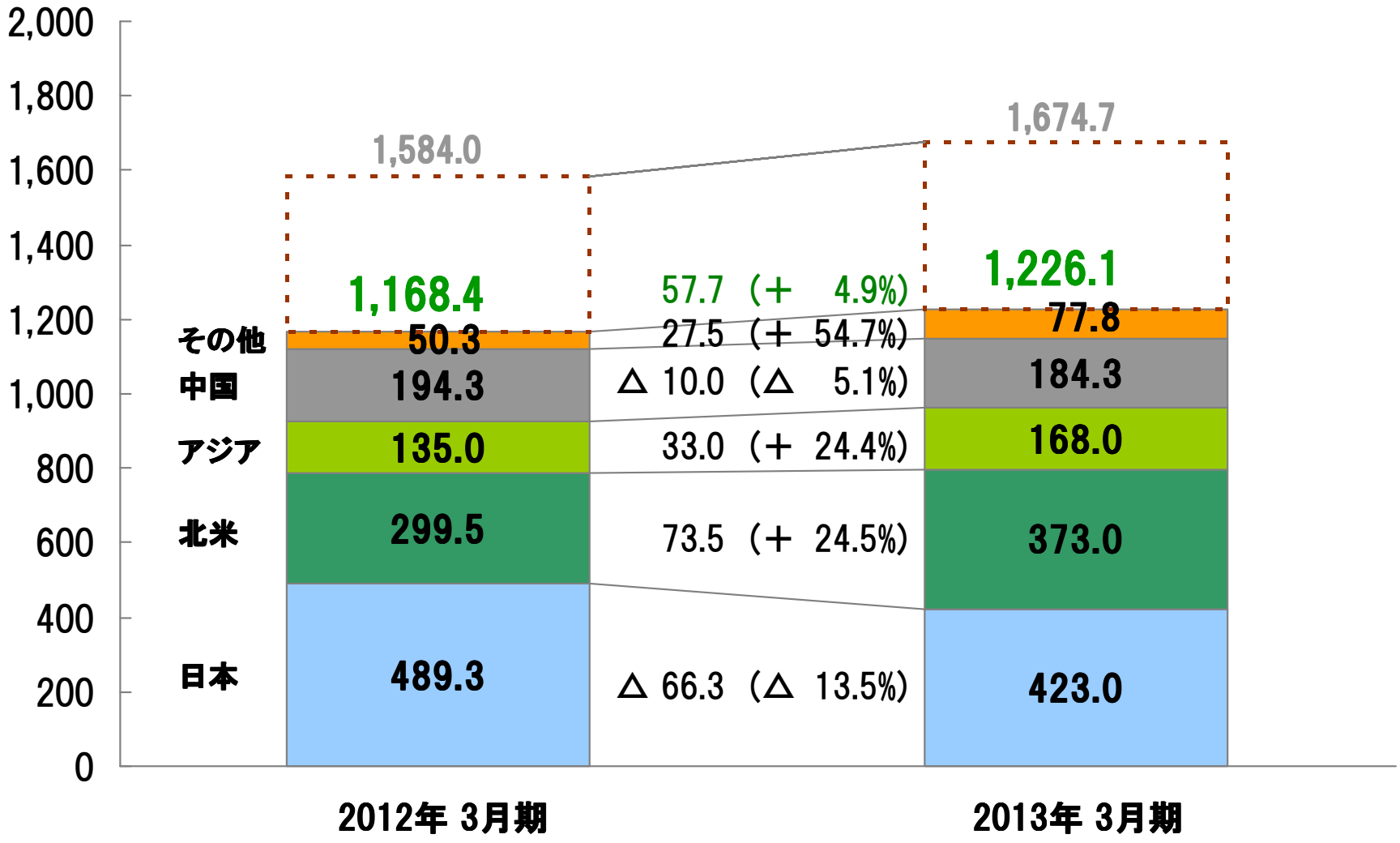
（セグメント間の内部売上高及び振替高を除く）



北米・アジア・その他地域の受注増により増収

13年3月期連結決算概況 地域別売上高

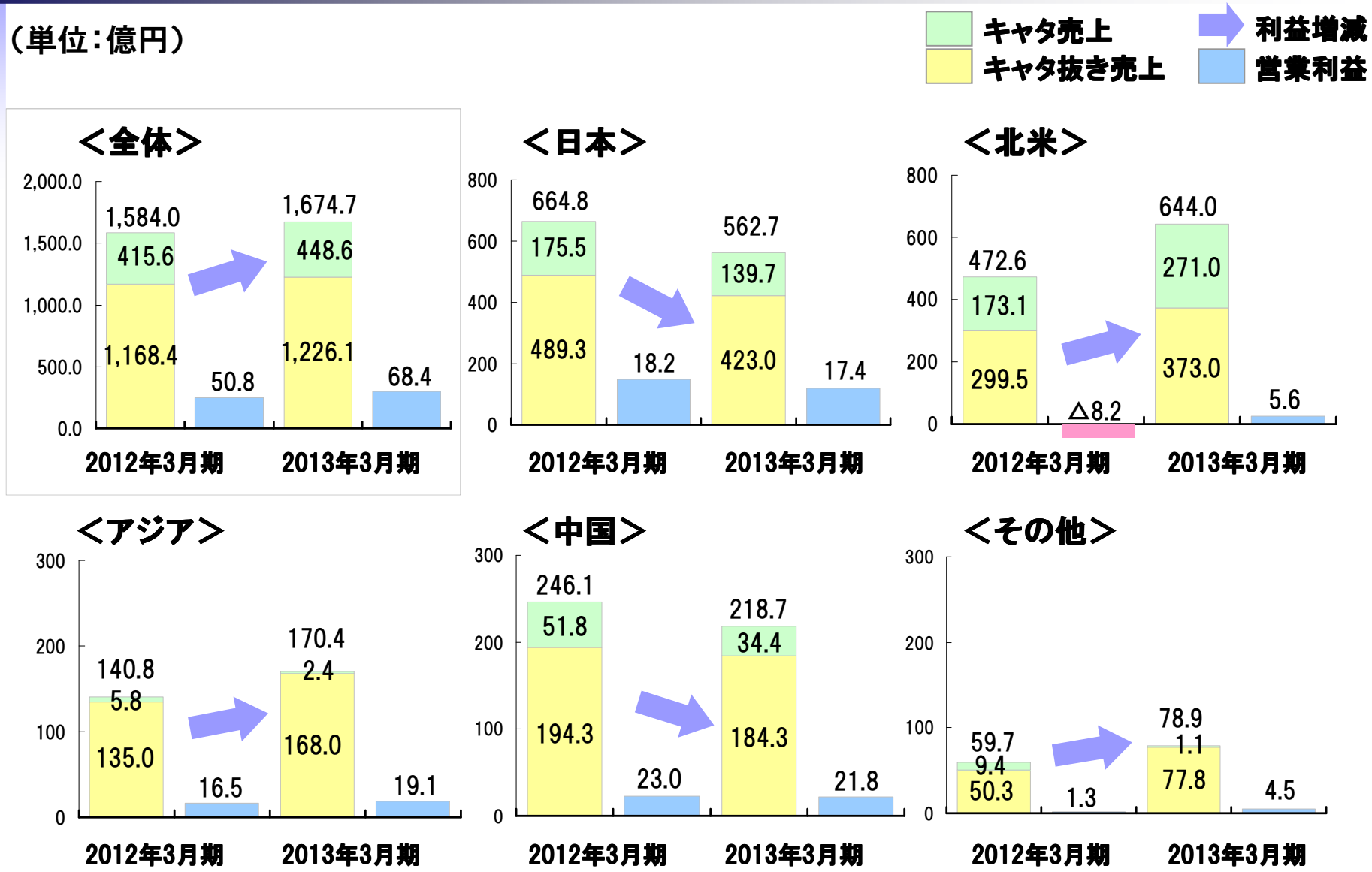
（単位：億円）　　（キャタリスト抜き）



キャタリスト抜きでも北米・アジア・その他地域で増収

13年3月期連結決算概況 地域別営業利益

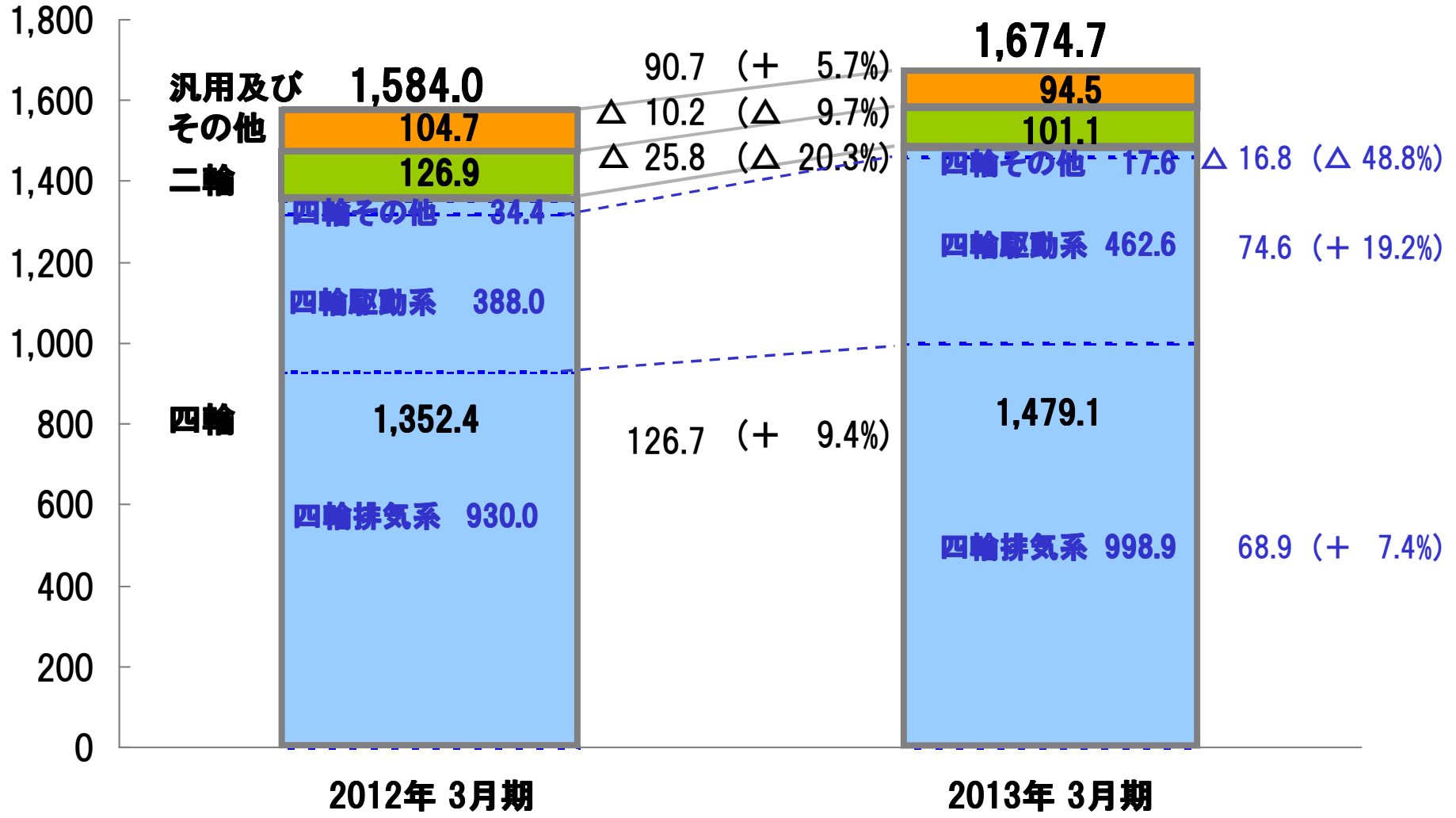
（単位：億円）



北米も黒字に転じて、すべての地域で黒字化

13年3月期連結決算概況 製品別売上高

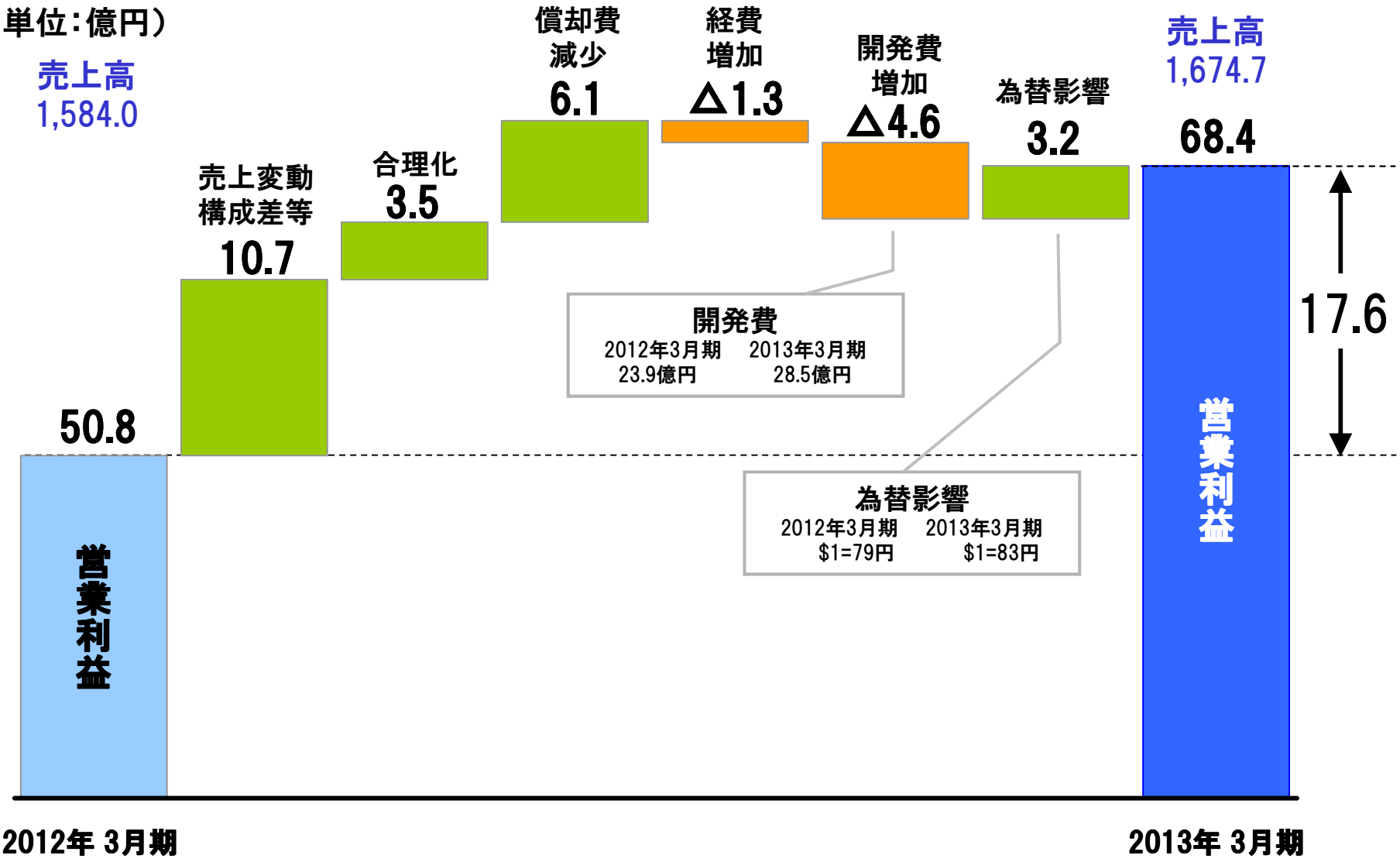
（単位：億円）



自動車部品四輪の受注増により増収

13年3月期連結決算概況 営業利益 増減要因

（単位：億円）



震災・タイ洪水からの回復や合理化等の実施により17億円の増益

2014年3月期
見通し

14年3月期連結見通し

（単位：億円）

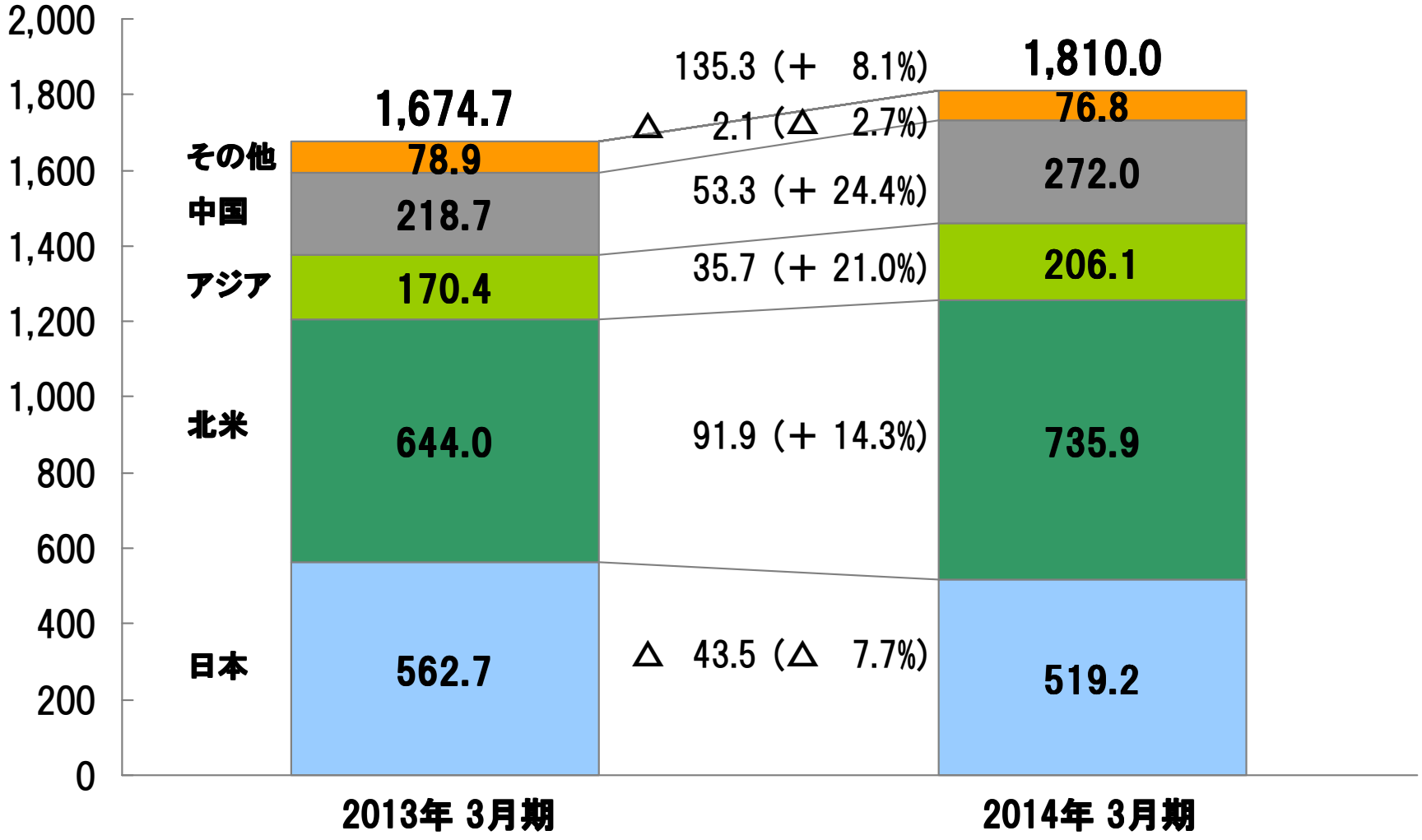
	2013年 3月期	2014年 3月期	増　減
売上高	1,674.7	1,810.0	8.1 %
営業利益	68.4	90.0	31.5 %
経常利益	75.2	87.0	15.6 %
当期純利益	38.9	40.0	2.6 %
1株当り当期純利益	262.98円	269.93円	6.95円
1株当り配当金	36.0 円 ＊中間 18円，期末 18円	36.0 円 ＊中間 18円，期末 18円	― 円
	($1=¥83)	($1=¥90)	

海外の受注増により増収増益

14年3月期連結見通し 地域別売上高

（単位：億円）

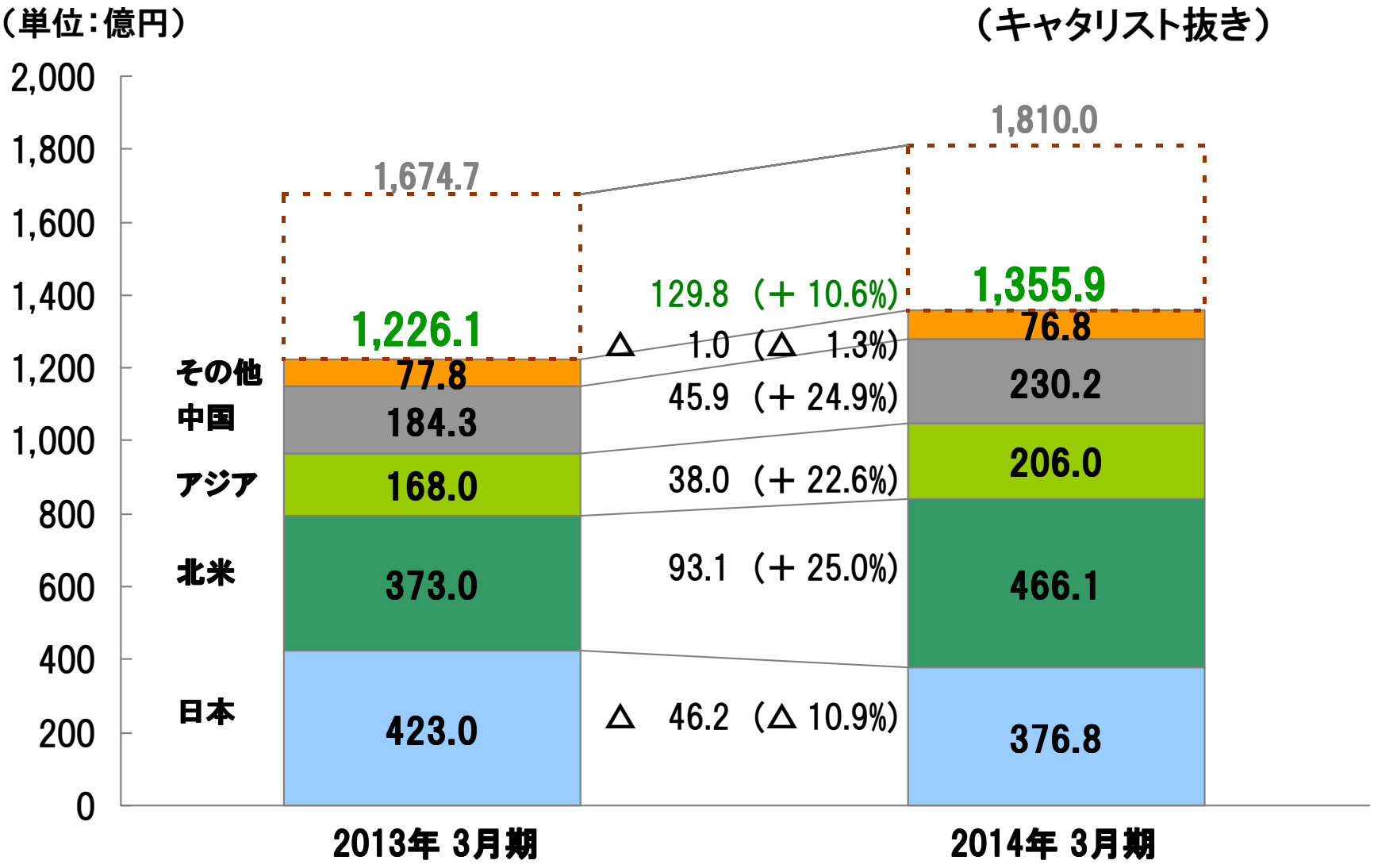
（セグメント間の内部売上高及び振替高を除く）



北米・アジア・中国地域で増収の見通し

14年3月期連結見通し 地域別売上高

（単位：億円）

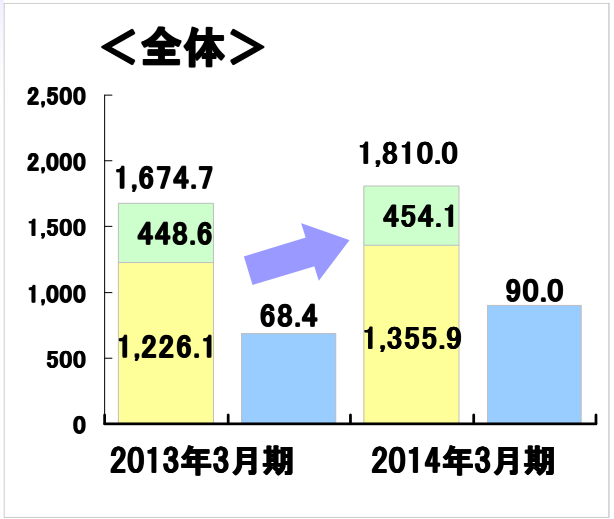


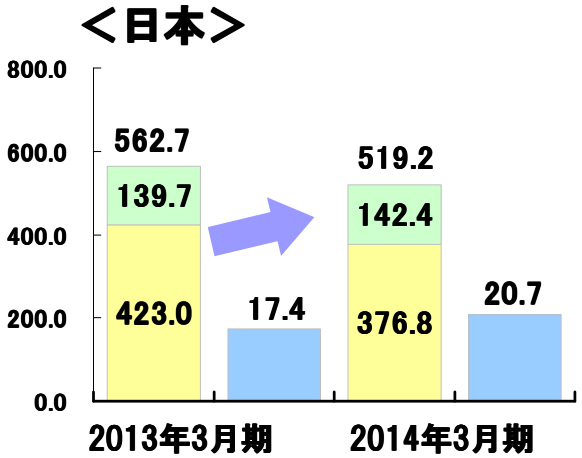
キャタリスト抜きでも増収見通し

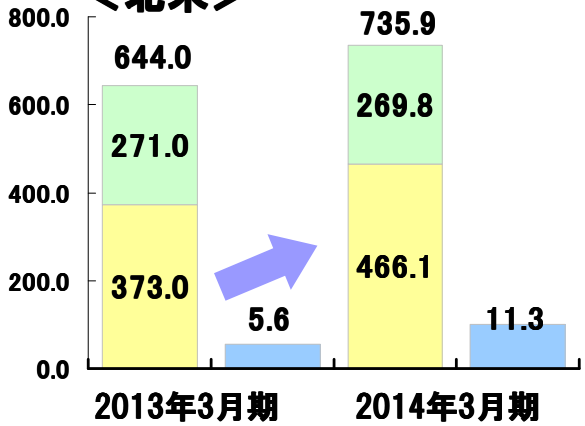
14年3月期連結見通し 地域別営業利益

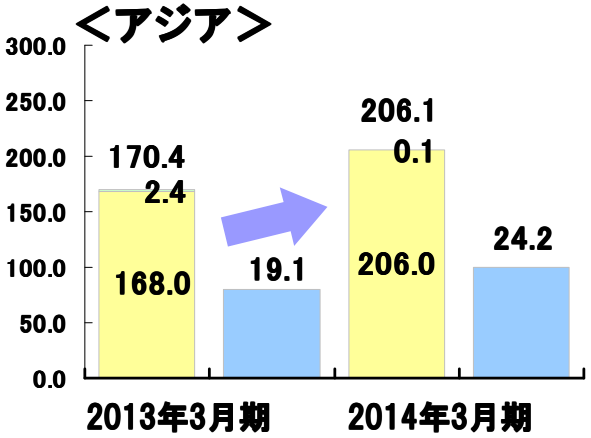
（単位：億円）

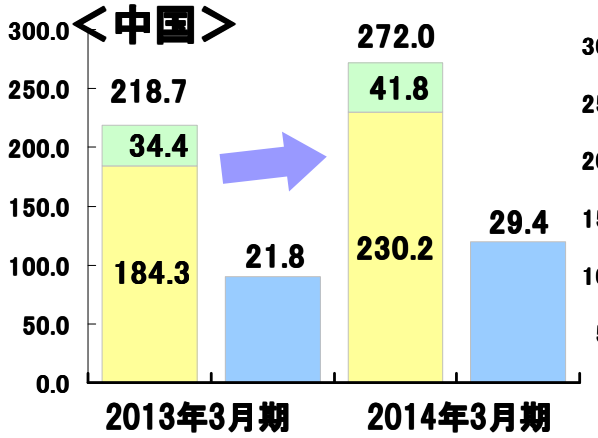


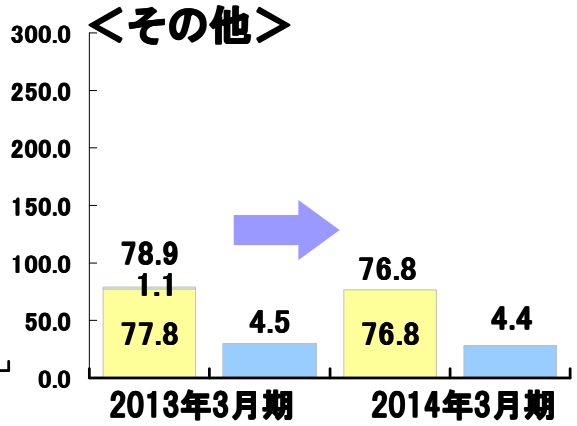








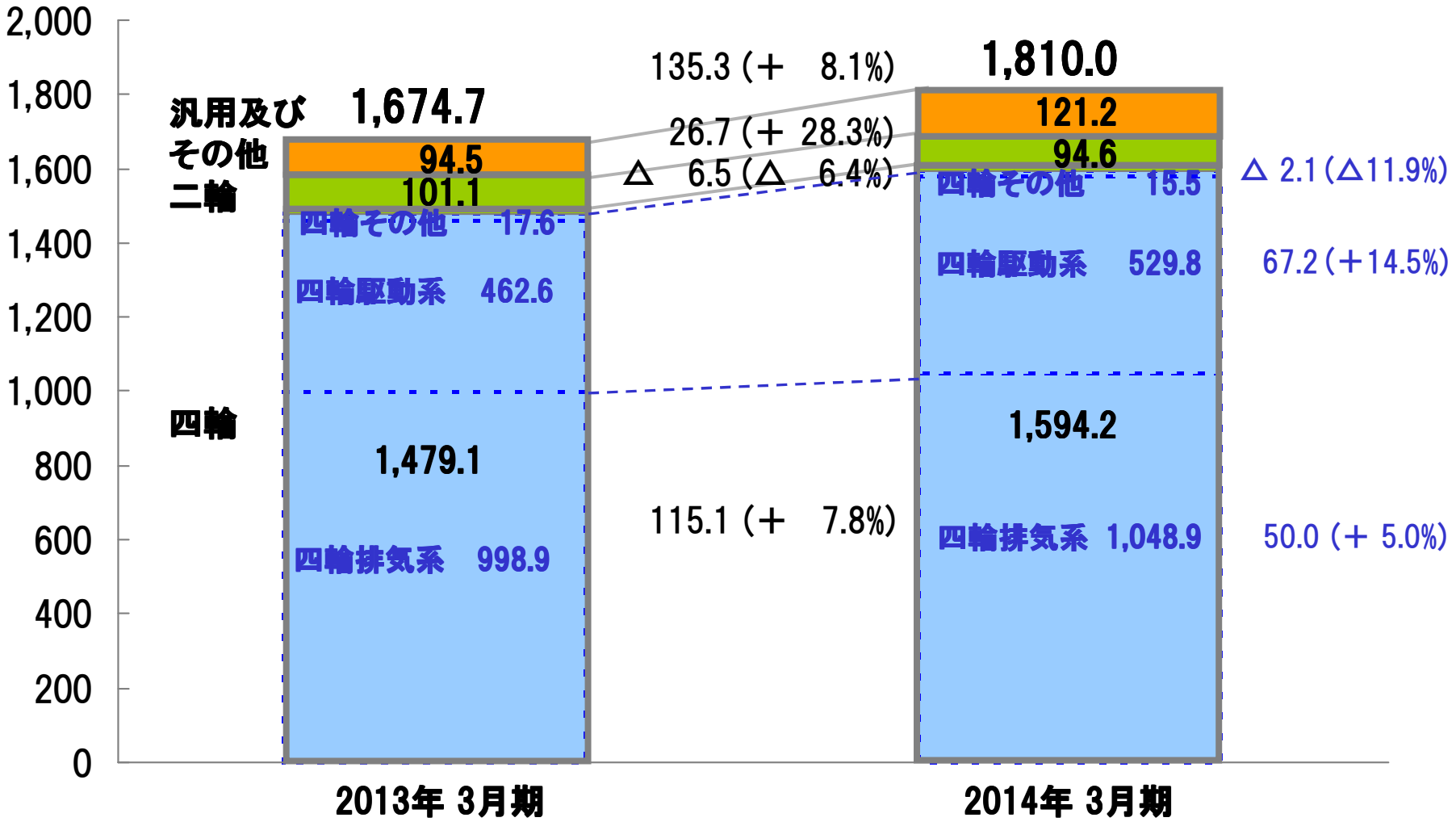




主要地域において増益見通し

14年3月期連結見通し 製品別売上高

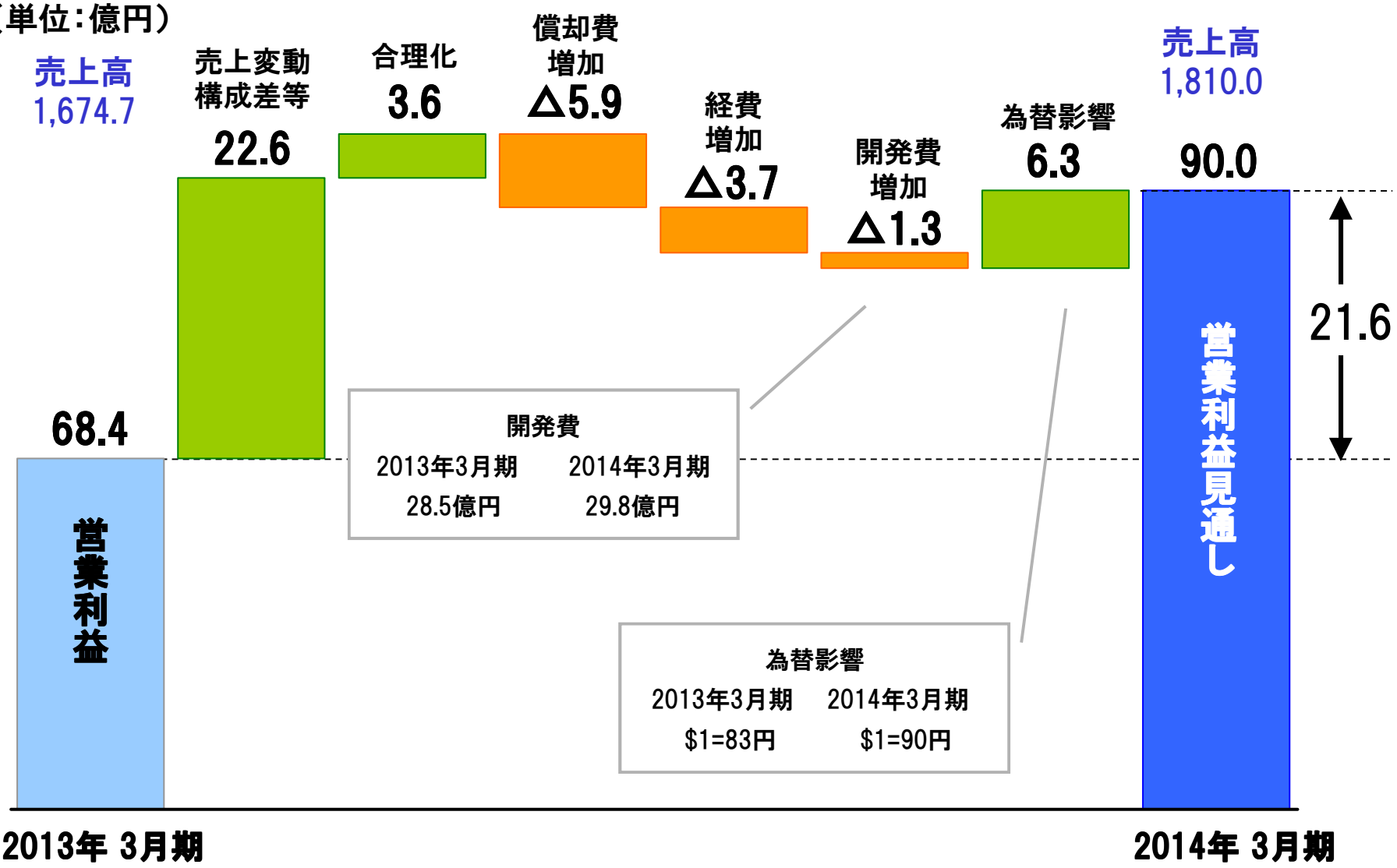
（単位：億円）



自動車部品四輪の受注増により増収

14年3月期連結見通し 営業利益 増減要因

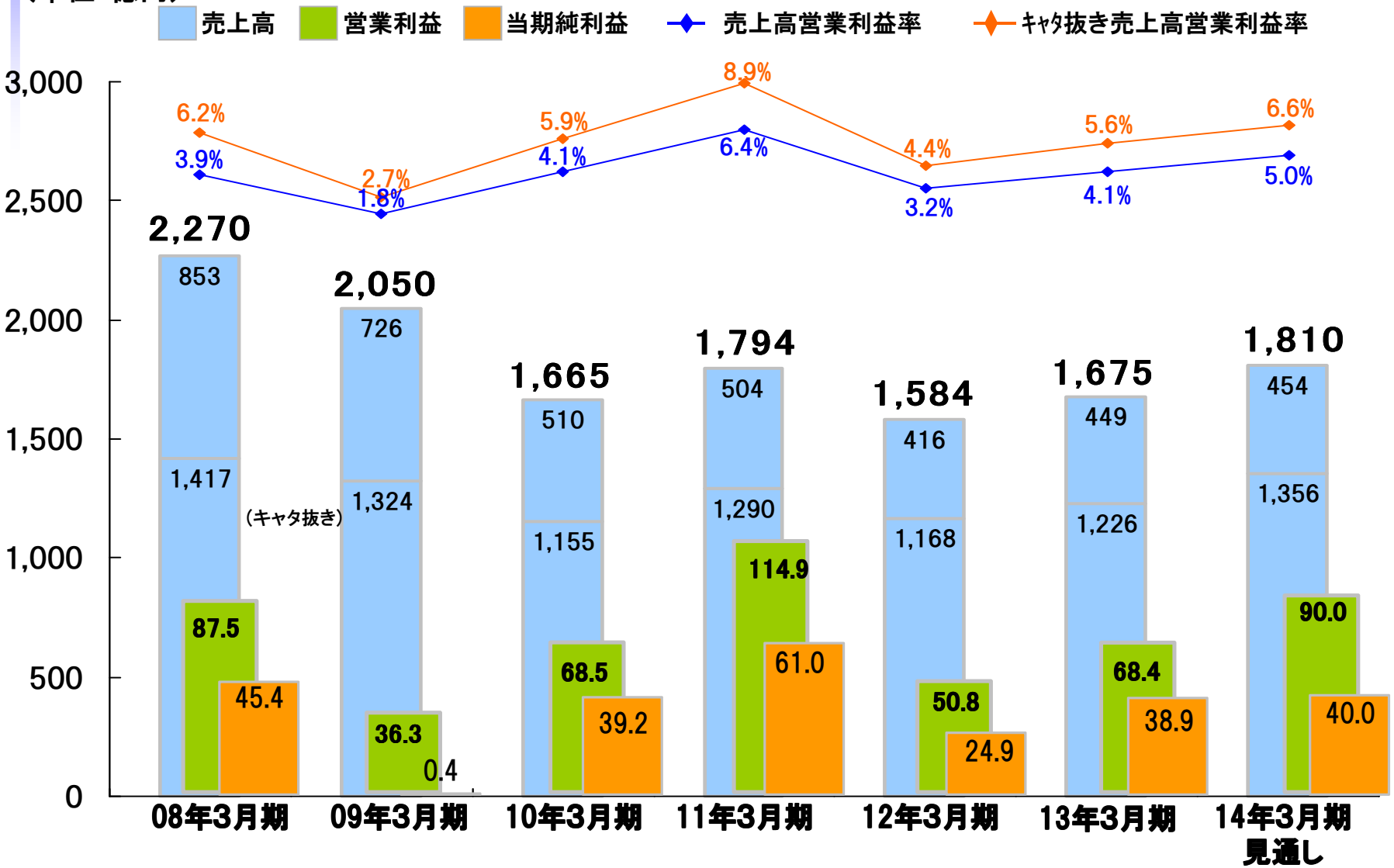
（単位：億円）



売上増加・合理化・為替影響により、増益の見通し

14年3月期連結見通し 売上及び利益の推移

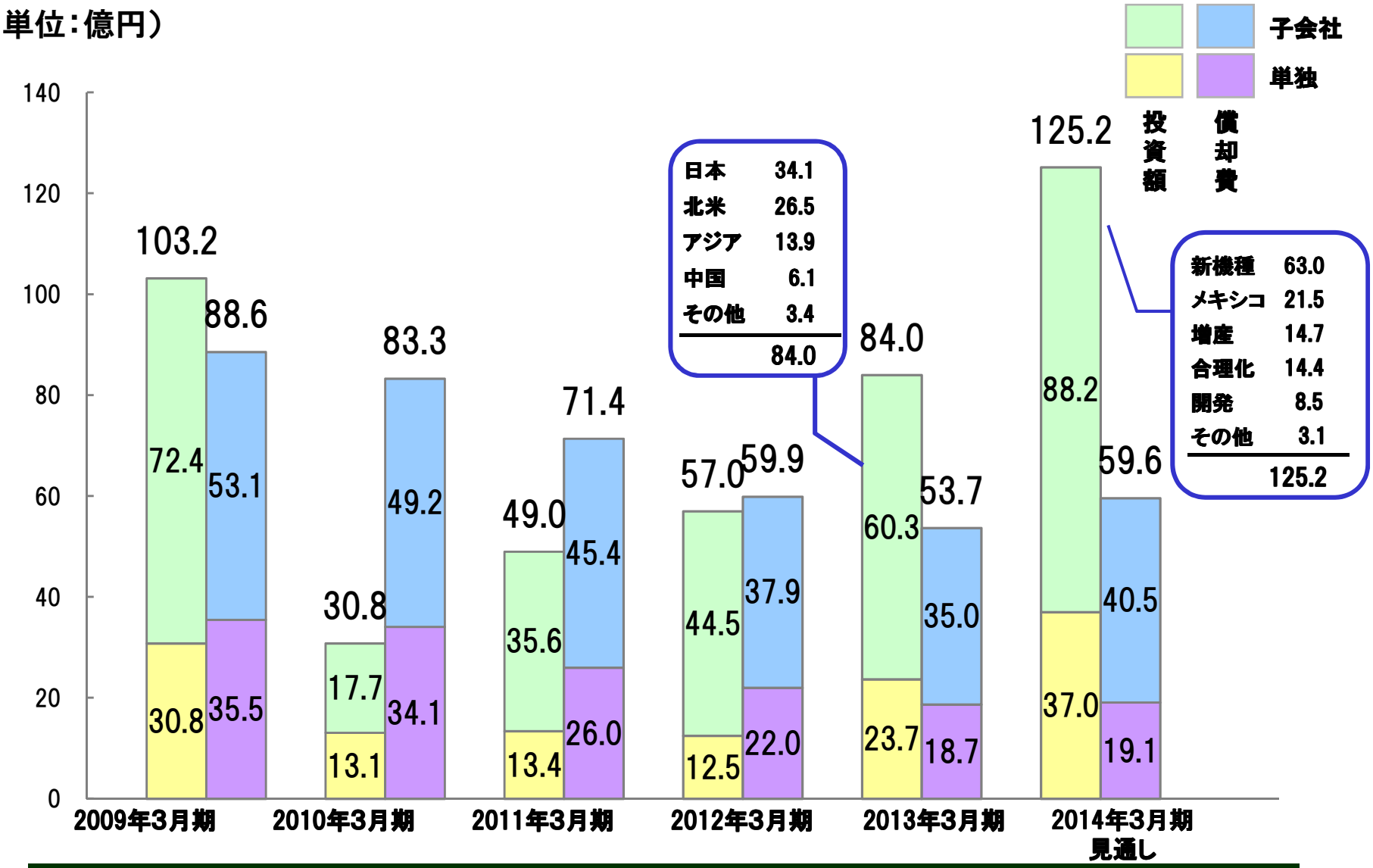
（単位：億円）



14年3月期も増収増益基調を維持

14年3月期連結見通し 設備投資額の推移

（単位：億円）



新機種・新拠点及び増産対応を実施

事業状況

アジア地域の市場拡大＜事例① YST(タイ)＞

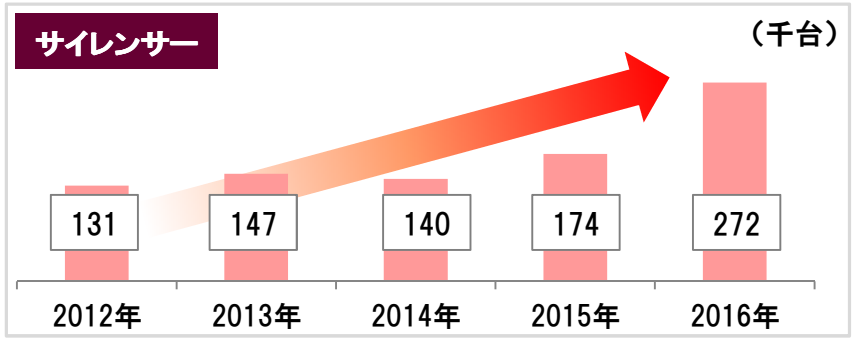
◆YST第2工場

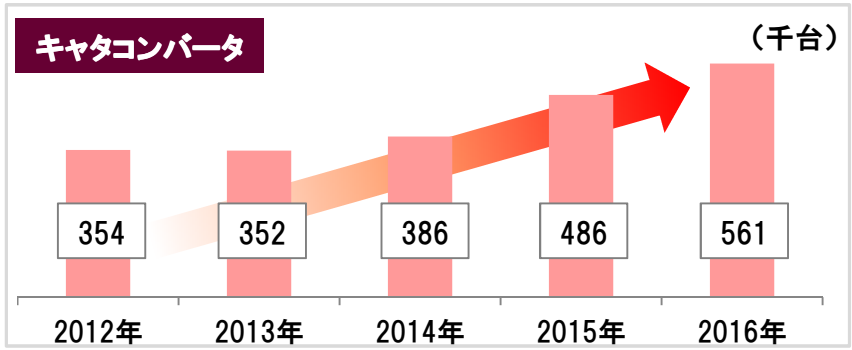
完成予定図(第1STEP)

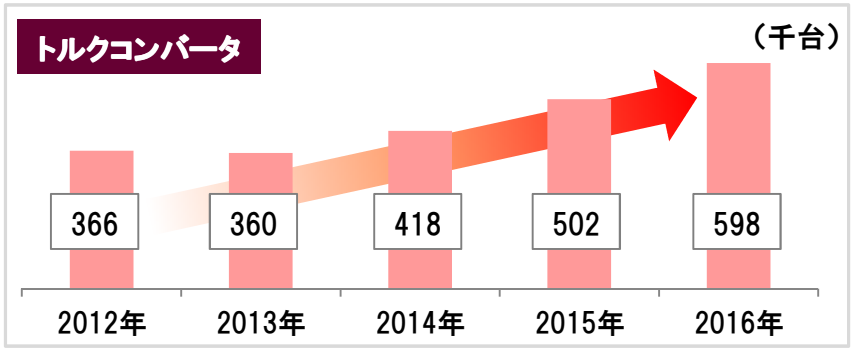


土地	既存	20,800㎡
	新規	72,160㎡
建屋	既存	12,134㎡
	新規 第1STEP	7,754㎡
	新規 第2STEP	17,242㎡

◆YSTの生産推移







四輪40万台体制に向け、2段階に分け第2工場の建設をスタート

アジア地域の市場拡大＜事例② YMI(インドネシア)＞

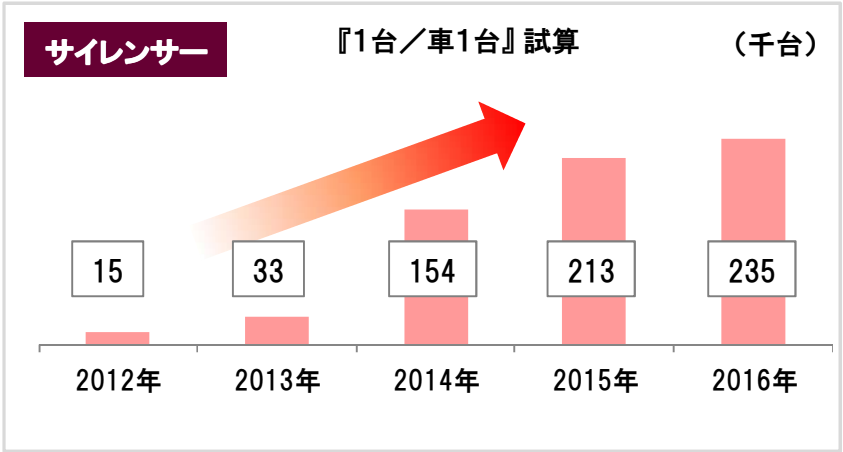
◆YMI第2工場

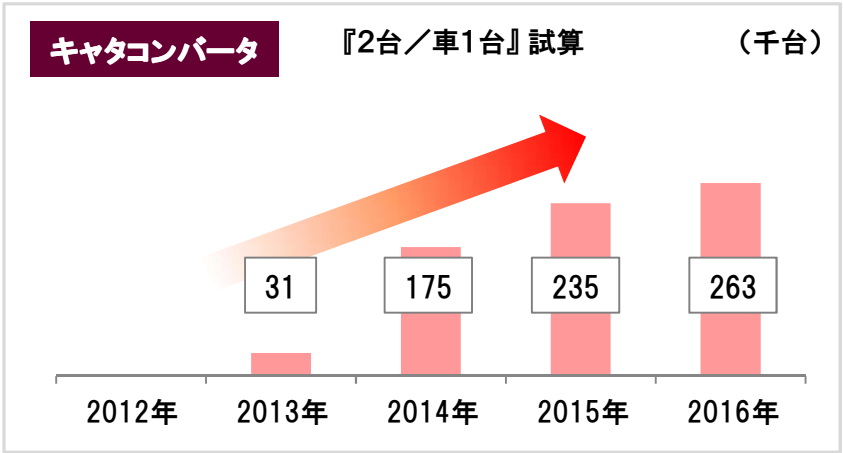
完成予定図



土地	既存	22,800㎡
	2008年購入	18,000㎡
建屋	既存	9,200㎡
	増築	5,760㎡

◆YMIの生産能力





四輪生産能力拡大に対応すべく、既存第2工場の拡張をスタート

Yutaka新製品の紹介　＜主幹製品の進化＞

◆新構造フライホイール

Honda13.5モデル

ｱｺｰﾄﾞ ﾌﾟﾗｸﾞｲﾝ ﾊｲﾌﾞﾘｯﾄ(北米仕様)に採用





28mm



2013年1月米国発売

特徴　06モデルフィットとの比較

●薄幅化：40.5mm⇒28mm(-31%)
●軽量化：8.134kg⇒6.101kg(-25%)
●ねじりトルク：207Nm⇒549Nm(+265%)

Yutaka独自の開発力

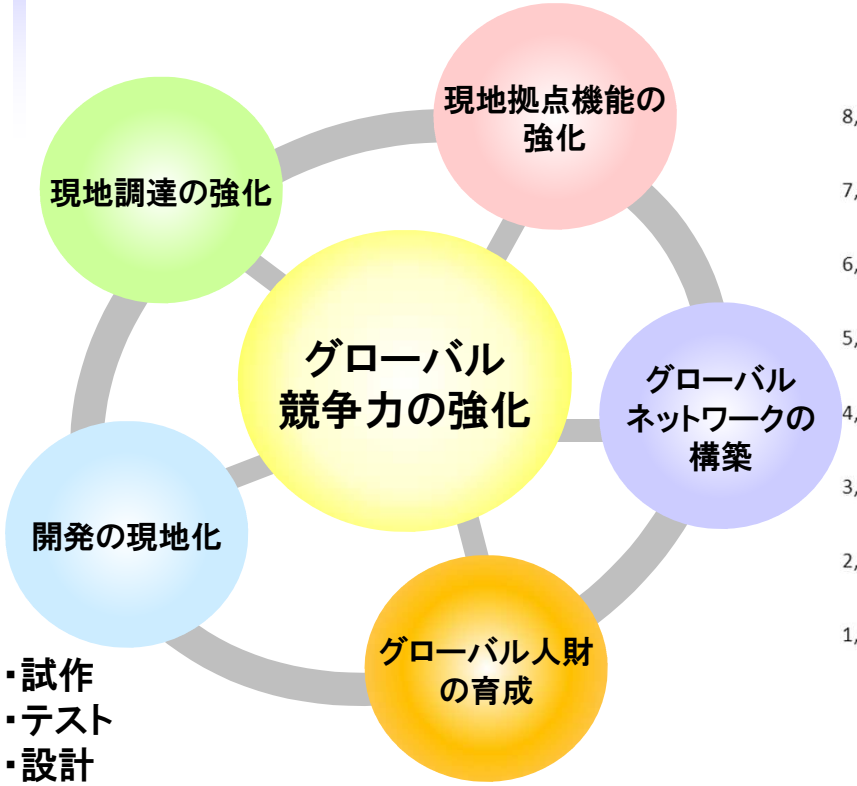
●Yutakaとして初のPHV用フライホイール開発。
長年に渡るフライホイール開発のノウハウを
活かし、高トルク＆高回転にも耐え、
客先要求を満足させながら限界まで薄幅化を実現。

Yutaka独自の技術力

●得意のプレス技術を駆使して
可能な限り板厚を薄く設計し、
軽量化を実現し燃費向上に大きく貢献。

これまで培ってきたノウハウを活かし、「薄幅化」「軽量化」を実現

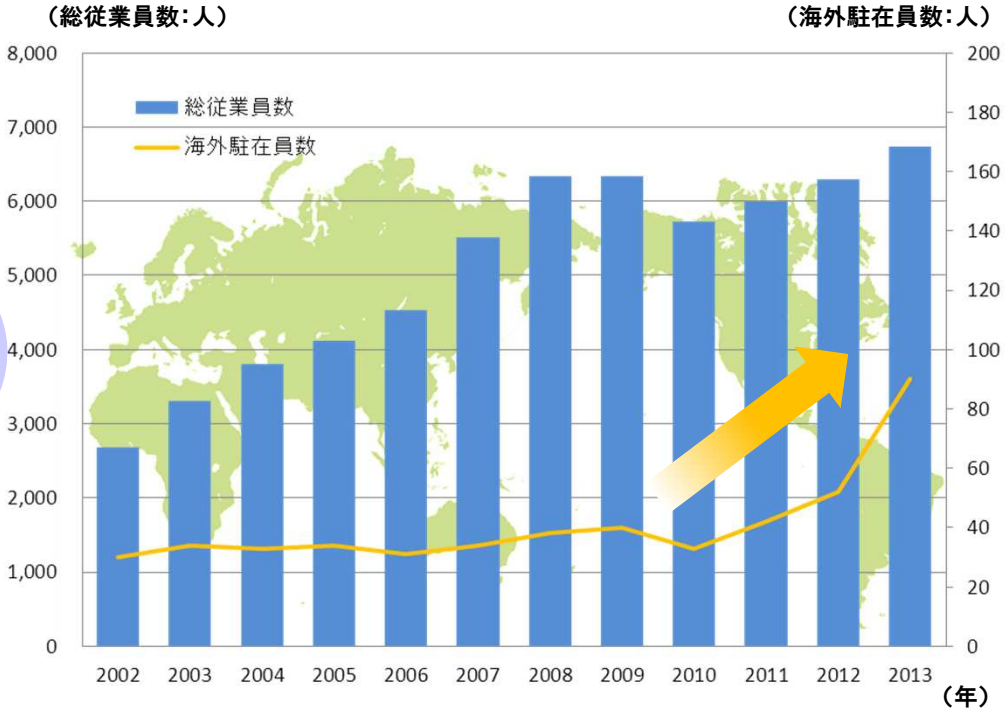
Yutakaのグローバル展開



・試作
・テスト
・設計

・現地マネージャークラスの育成
・語学力の強化
・海外からの日本研修(TIJ)
・情報ネットワーク

◆Yutaka海外駐在員の増加



開発の現地化と拠点の体質強化及び相互の人財育成を目的に駐在員を増加させていきます。

グローバル事業拡大に対応した人財育成と現地開発力の強化


YUTAKA
Clean for the Future